

美の基準 Design Code

キーワード	前提条件	解決法	課題
○ふさわしい色	それぞれの町には、ふさわしい色が存在する。 例えば、地中海の町では白い建築物が、石灰質の大地の岩肌にマッチしてその存在をアピールしている。 真鶴町は海の青さと森の緑が最もふさわしい色である。 建築物がこれらの色に溶け込むためには、どんな配慮が必要であろうか。	建築物の基本的配色は落ち着いた暖かい色とすること。 素材の色を生かし、自然光、反射光が柔らかいイメージを織り成すように配色すること。 建築物の配色計画をしっかり立てること。	

●みどりや青の中に、大きなオレンジ、黄、ムラサキが調和しますか？

●ベースカラー+ポイントは美しい
+ベースカラーグレイ+α

●社会に認知された色の科学分析を考慮する

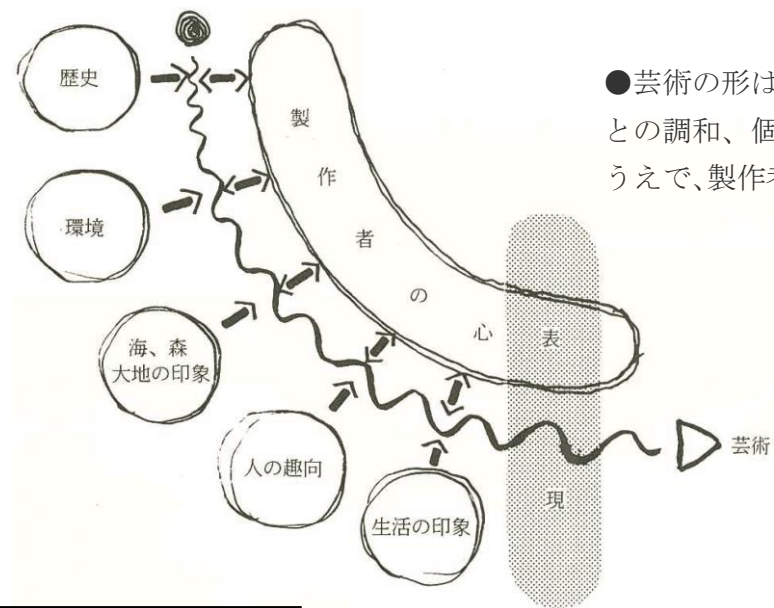
●色相環、配色体系より考慮決定すべき色

PCCSの色相は右図のように12色相または24色相に区分される。

●色彩計画のモデルフロー

●配色チャートによる、しつかりとしたカラーイメージ作り

○ 海、森、大地、生活の印象



●芸術の形は自然や取り囲むまちの印象、建築との調和、個人の考えと趣向、それを踏まえたうえで、製作者の心を表示したものでありたい。

真鶴まちづくり条例
美の基準
Design Code

『美の基準』は真鶴町を美しくすることによって、生き生きと生活するための「ルール」です。真鶴町ホームページで確認できます。

<http://www.town-manazuru.jp/book/design-manazuru-small.pdf>

真鶴町 色彩基準

真鶴町は、箱根の外輪山に包み込まれ、相模湾に突き出した海に長い外形を持っており、それが豊かな美しい『眺め』を作り出しています。また、『豊かな植生』に覆われ町のあちこちから眺めることができる御林（『聖なる所』）が半島の先端にある町では、住民はこれまで斜面地のみかん畑や漁師の船や海辺で繕う網、季節ごとにそして時間の移り変わりとともに変化する海や山、そして空の色彩を楽しみ（『海、森、大地、生活の印象』、『海の仕事、山の仕事』、『夜行虫』）、建物が建ち並ぶ家々にも『建物の緑』『覆う緑』『日の恵』『木々の印象』『地場植物』『実のなる木』『格子棚の植物』『歩行路の生態』『ふだんの緑』『さわれる花』など自然を取り込んで豊かな生活をしてきました。また、このような風景の中であってこそ、『まつり』『できごと』の一瞬の色彩が引き立てられ、人々を盛り上げる大切な要素ともなっています。

それぞれの町には、ふさわしい色があります。建築物の屋根や外壁の色彩は、この真鶴町の印象を決して壊すことなく配色することが大切です。建築物の基本的配色は、落ち着いた暖かい色とすること。素材を生かし、自然光、反射光が柔らかいイメージを織り成すように配色をすることが大切です（『ふさわしい色』）。

『 』は、「美の基準」で屋根に関連するキーワードです。

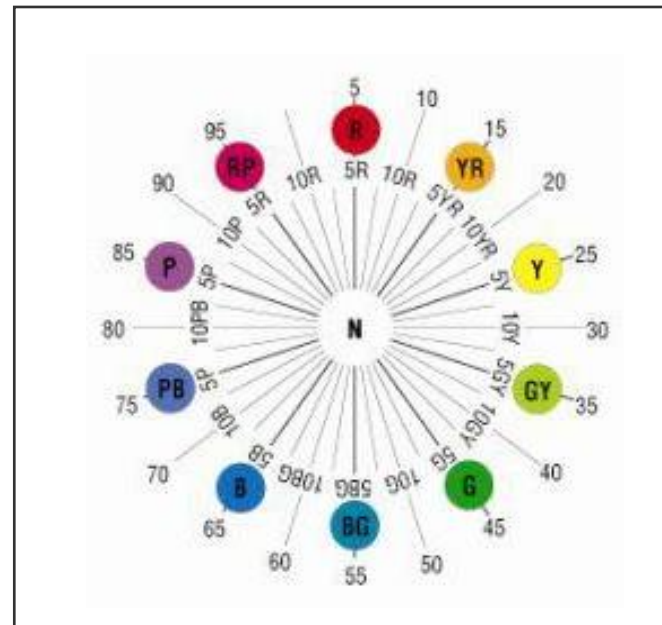
■ マンセル表色系

JIS（日本工業規格 JIS-Z8721 に定める）で採用されている国際的な色の尺度です。『マンセル表色系』では、ひとつの色彩を『色相（いろあい）』、『明度（あかるさ）』、『彩度（あざやかさ）』の3つの尺度で表します。

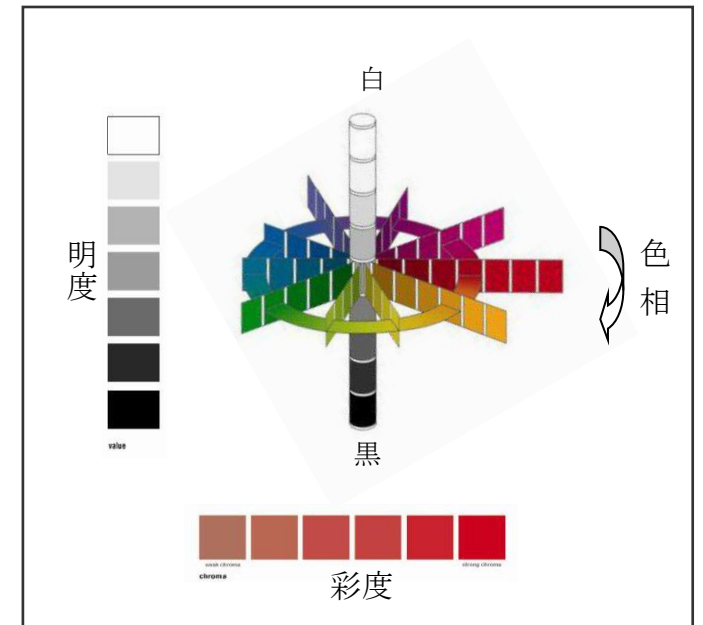


にてんごワイ はちのじゅうに
2. 5 Y 8 / 1 2
色相 明度 彩度

マンセル色相環



マンセル表式系のしくみ



■ 行為に対する制限

建築物等の基本的配色は原色を避け、落ち着いた暖かい色彩とし、周辺の環境と調和した配色としなければならない。

■ 『ふさわしい色』の基準

《 真鶴港地区 》

真鶴港の赤や青、緑といった色とりどりの屋根の特徴を活かして育んでいくように色彩の規制範囲を設けています。また、真鶴町を特徴づけている行事である「貴船まつり」に繰り出す、色とりどりの小早船が引き立つように、真鶴港地区は他の地域よりも高い明度（明度 8.5～6）を推奨します。

基準の適応地域・部位		色相	明度	彩度
真鶴港地区	屋根推奨色	0.1R～10R	4以下	6以下
		0.1YR～4.9GY	4以下	2以下
		5GY～2.5BG	7以下	4以下
		2.6BG～4.9B	4以下	2以下
		5B～5PB	4以下	4以下
		5.1PB～10RP	4以下	1以下
		無彩色 N	4以下	-
	壁面推奨色	0.1R～10YR	6以上8.5以下	4以下
		0.1Y～10RP	6以上8.5以下	2以下
無彩色 N		6以上8.5以下	-	

《 その他の地域 》

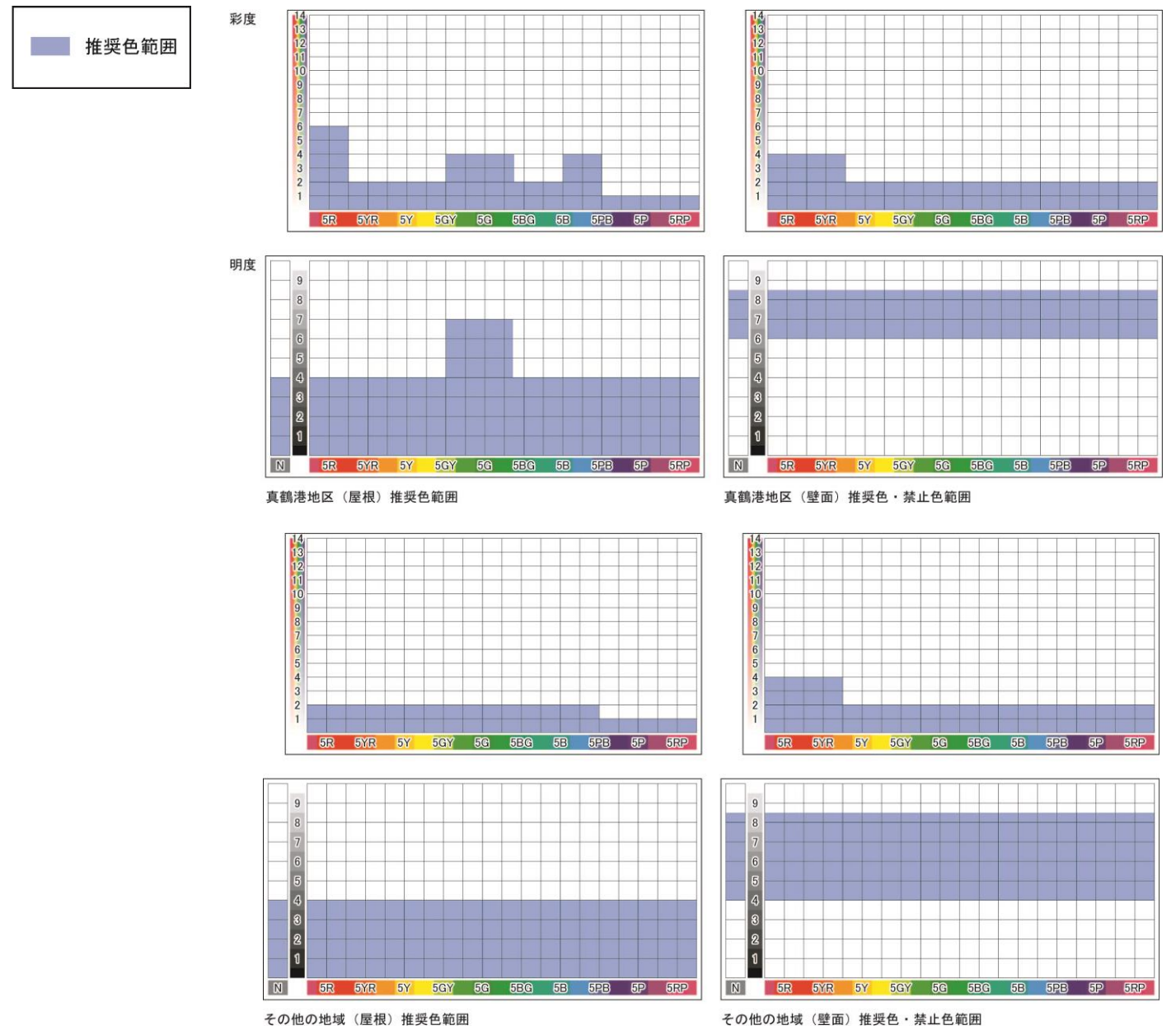
低彩度・低明度色を推奨します。いずれの地域に関しても、既存の宅地に対して背景のみどり、そして相模湾や空が引き立つように、自然色彩よりも弱い色味に設定しています。

基準の適応地域・部位		色相	明度	彩度
その他の地域	屋根推奨色	0.1R～5PB	4以下	2以下
		5.1PB～10RP	4以下	1以下
		無彩色 N	4以下	-
	壁面推奨色	0.1R～10YR	4以上8.5以下	4以下
		0.1Y～10RP	4以上8.5以下	2以下
		無彩色 N	4以上8.5以下	-

※表面に着色を施していない木材、土壁、石等の自然素材、スレート、硝子などの素材色は適用除外とします。

※金属（アルミ等）の使用については、推奨色に適合するよう特に注意してください。

■ 色彩の基準表



■ 真鶴港地区（エリア図）

